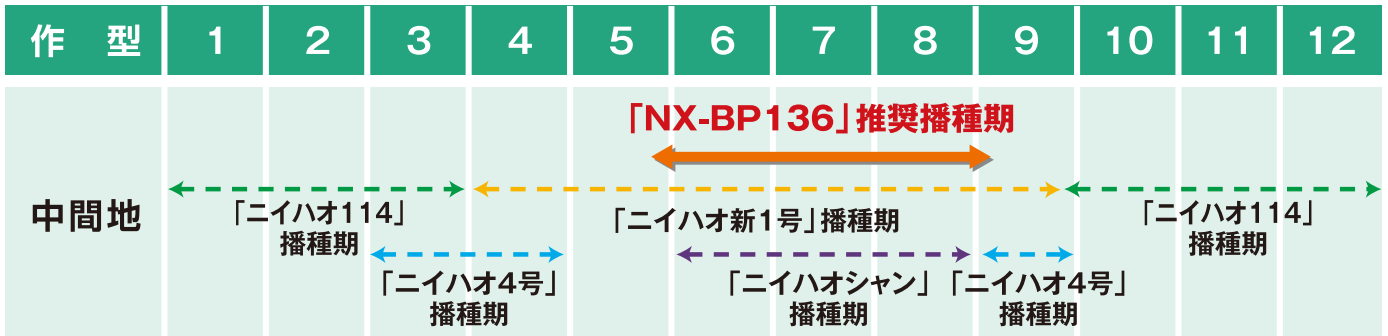


「NX-BP136」の栽培方法

①「NX-BP136」の推奨播種期と当社品種との使い分け



② 播種から定植までの注意点



- **老化苗は植えない……** 製品のロスの方がはるかに大きな損失
⇒ 軟弱徒長、倒伏、尻部形状の乱れの原因となります。
- **浅植えは禁物……** 余計な手間を生む
⇒ 乾燥しやすくなり、灌水回数が余計に増えます。

③ 定植後の灌水管理

- 生育初期(本葉5枚まで)
 - ・活着するまでは乾かしすぎないように注意しながら、土壌水分を保ちます。
- 生育中期(本葉12枚まで)
 - ・灌水量を少なめに調節し、外葉をコンパクトにすることが大切です。
 - ・5~10分程度の少量灌水を早朝もしくは夕方5時以降に行うことで葉のしおれを防止し、生育を促進します。
- 生育後期(本葉15枚)
 - ・引き続き少量灌水で芯葉の生育を促進します。

従来品種との根量の比較

従来品種 NX-BP136



「NX-BP136」は従来品種に比べ、根量が少ないのが特徴です。少量の灌水を定期的に行い、生育を促します。

④ その他の注意点



- 軟腐病予防は銅剤の利用が効果的です。薬害に注意し、生育初期に防除に努めます(農薬の使用は必ず登録内容をご確認ください)。
- 播種作業はこまめに少しずつ行い、適期定植を心掛けます。
- 高温期は遮光ネット(遮光率50%前後)等の利用が効果的です。

注：使用農薬の選択および使用方法につきましては、お近くの種苗専門店や農協、公共の指導機関などにご確認の上、使用される農薬の注意書きをよく読んでお使いくださるようお願い申し上げます。